様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ６ 月 １７ 日現在

機関番号：３２７０２
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2011～2014
課題番号：２３５２０７１４

研究課題名（和文）習得基準と自律学習の観点に立脚した非専攻課程ロシア語教育文法とプロファイルの構築

研究課題名（英文）Construction of a Russian Educational Grammar and Course Profiles Founded upon Standards for Evaluating Acquisition and Autonomous Learning by Non-Majoring Students of Russian

研究代表者
堤　正典（TSUTSUMI, Masanori）

神奈川大学・外国語学部・教授

研究者番号：８０２８１４５０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,800,000円

研究成果の概要（和文）：日本では英語以外の外国語教育において大学の非専攻課程教育が重要な位置を占めており、ロシア語教育でも同様である。しかし、非専攻課程教育は学習時間が十分ではなく、そのため自律学習の確立が基盤となる。また、習得基準を提示して、学習のロードマップとすることも必要である。そのようなことに立脚して、ロシア語の文法教育の見直しを行った。さらに、非専攻課程ロシア語教育のプロファイルの検討を行い、加えて、ロシア語教育における「レアリア」の問題の洗い出しを行った。

研究成果の概要（英文）：In Japan non-major courses are important for university foreign language education, including that for Russian. However, non-major courses can provide few lessons for learning the language, so students need to learn it autonomously, and a standard for evaluating acquisition needs to be provided to them for use as a road map. To prepare for this, we have reconsidered Russian educational grammar, and the educational profiles of non-major courses on Russian. Additionally, we have identified issues related to problems concerning “realia” in the education of Russian.

研究分野：ロシア語教育学，ロシア語学

キーワード：ロシア語教育　教育文法　自律学習　プロファイル　習得基準　CEFR　国際研究者交流　ロシア

１．研究開始当初の背景

(1) ロシア語は日本人にとって習得はたやすい言語ではない。大学では自習時間を除く学習時間で、週に 5 コマから 6 コマ（年 30 週、1 コマ 90 分）学習する専攻課程においても必ずしも十分とは言えない実際があり、ましてや多くても週 2 コマ程度の非専攻課程の場合は言うまでもない。

前者の専攻課程においても実際上は同様であろうが、特に後者の非専攻課程において、わずかな学習時間ながら、学習者にロシア語を習得させるためには、次の 2 点の土台が前提となる。

(2) 【習得基準の提示】学習者が教師とともに学習の課程を進んでいく際に、学習のロードマップとなる習得基準を示すことが必要である。学習者はそれぞれの段階での目標を意識し、次のステップに進むことができる。

(3) 【自律学習の確立】学習者は教師に教えられる時間以外にも学習時間を持つ必要があり、学習時間を自律的に管理することができる必要がある。また、教師とともに学ぶ期間を終えた後に、独習書やその他の教材を用いてさらに次のステップに進むことができるようになる必要がある。

外国語の学習は、その言語を必要とする限り、永続的に行われるものとなるので、生涯学習としての自律学習という視点が必要となる。

(4) 習得基準と自律学習という土台の上で、外国語の具体的な学習項目には、語彙の学習、文法の学習、表現の学習、レアリア（言語使用に関わる現実についての情報）の学習、等がある。我々のこれまでの研究実績などから、ここではまず文法を取り上げる。しかし、それぞれの側面は互いに独立というわけではないので、他の側面も適宜取り扱うこととする。特にロシア語教育におけるレアリアの問題は、日本では研究が進んでいるとは言えない。そのため、本研究においてある程度は取り扱っていくべきだと考えた。

２．研究の目的

(1)習得基準と自律学習を土台とした非専攻課程ロシア語教育において、語彙・文法・表現・レアリア等の教育内容を検討しつつ、特に教育文法を深く検討する。教育現場の状況に即した検証を行いつつ、教育文法を改良し、非専攻課程ロシア語プロファイル構築の検討を行う。

(2) 習得基準と自律学習に立脚した非専攻課程ロシア語教育におけるプロファイルの構築のため、文法のみならず、語彙・表現・レアリアなどを含め、ロシア語とロシア語教育に関する種々の知識の集積を行う。また、習得基準についても検討を行い、必要な改訂を行う必要がある。

(3) 上記(2)に関連して、特にレアリアの教育については日本において研究が進展しているとは言えない。したがって、それに関わる問題点の洗い出しを行う。

(4) 自律学習のための教育文法とプロファイルの改良を行う際に、ICT（情報通信技術）を活用した教育内容や教材の調査・検討を行う。

３．研究の方法

(1) 本研究では、特に文法の教育内容を取り上げる。ロシア語は語形変化が豊富な言語であり、文法の習得は、まったく異なるタイプの言語を用いている日本人にはそう容易ではない。学習時間数がより少ない非専攻課程ロシア語教育のためには、より効果的な文法教育が必要である。実際の教育現場から得られる知見や、既存の教材の検討、他の言語も含めた文法教育についての論考などから必要な情報を集め、文法教育内容の検討を行っていく。

(2) 非専攻課程ロシア語教育におけるプロファイルの構築のため、文法のみならず、語彙の学習、表現の学習、レアリアの学習の側面を含め、ロシア語とロシア語教育において、国内外の知見を集積していく。研究協力者による情報や論考の提供も必要である。

(3) 上記(2)に関連して、特に日本では研究が進んでいるとは言えないレアリアについては検討を進め、問題点を明確にしていく。

(4) 生涯教育をも視野に入れた自律学習を学習者に促すべく文法教育とプロファイルの改良を検討する際に、ICT を活用した教育内容や教材も考慮の対象とし調査を進める。

４．研究成果

(1) 文法教育について、ロシア語のように語形変化が重視される言語においても「コミュニケーションのための文法」という観点を重視すべきであると主張する（『ロシア語学と言語教育 Ⅳ』125-131 頁）。

今後は、この観点から文法教育内容のさらなる改訂を進めていかなければならない。

(2) ロシア語教育に関わる知見の集積を行ったが、特に、小林はロシア語を学習者にとっての国際性という観点から分析した（『ロシア語学と言語教育 Ⅳ』5-21 頁）。

また、堤は、日本人学習者がロシアに留学する際に求められるロシア語力について記述した（『グローバリズムに伴う社会変容と言語政策』129-141 頁）。

さらに、計 5 名の研究協力者（臼山、サーンニコワ、トルストグーゾフ、阿出川、菅井）によりロシア語とロシア語教育についての種々の知見が得られた。（『ロシア語学と言語教育 Ⅳ』）。

(3) レアリアの学習について、2014 年に国際シンポジウムを開催した。ロシア語を学ぶ日本人の視点だけではなく、日本語を学ぶロシア人という視点を加えたため、議論が多層的になった。外国語学習におけるレアリアの教育について、言語教育の様々な側面でレアリアとともに教育内容を検討しなければなら

ないことが明確となった（『ロシア語学と言語教育 V』）。
　また、研究協力者コスチルキンによる報告から得られた日ロ語の基本動詞の用法に大きな相違があるという指摘は、今後の研究の大きな課題を提示したと言える（『ロシア語学と言語教育 V』74-75 頁）。
(4) ロシア語教育についての ICT 活用において、ロシアの研究協力者ベリャコワ・サーンニコワ・ガヴリルキナの 3 氏の共同でロシア国立アストラハン大学のロシア語教育サイトについて報告が行われた（『ロシア語学と言語教育 Ⅳ』71-76 頁）。
　また、本研究の以前に連携協力者の尾子の協力を得て、基本語彙データベースを開発しているが、本研究では尾子により基本語彙データベースについてのさらなる検討が行われた（『ロシア語学と言語教育 Ⅳ』77-80 頁）。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計 3 件）

① 堤　正典　「語学留学の話」『ユーラシア研究』（ユーラシア研究所）第 46 号（2012）：54-55 頁　査読有

② 堤　正典　「ヘルシンキでのロシア語」『ユーラシア研究』（ユーラシア研究所）第 45 号（2011）：44-45 頁　査読有

③ 小林　潔　「第 12 回国際ロシア語ロシア文学教師連盟世界大会　参加報告」『ロシア語ロシア文学研究』（日本ロシア文学会）第 43 号（2011）：76-77 頁　査読有

〔学会発表〕（計 3 件）

① 堤　正典　「外国語教育とレアリア」2014 年度神奈川大学国際交流事業「シンポジウム・ユーラシアを研究する『言語教育におけるレアリア　～ロシア語と日本語』」　2014 年 7 月 12 日　神奈川大学横浜キャンパス（神奈川県横浜市）

② 小林　潔　「日露の異言語教育現場から見るレアリア」　2014 年度神奈川大学国際交流事業「シンポジウム・ユーラシアを研究する『言語教育におけるレアリア～ロシア語と日本語』」　2014 年 7 月 12 日　神奈川大学横浜キャンパス（神奈川県横浜市）

③ 小林　潔　「学習者にとってロシア語の国際性とは何か —問題提起にかえて」2011 年度神奈川大学国際交流事業「シンポジウム・ユーラシアを研究する『日露の交流と言語教育～ロシア語の新たなる国際性』」　2012 年 3 月 24 日　神奈川大学横浜キャンパス（神奈川県横浜市）

〔図書〕（計 3 件）

① 堤　正典編　『ロシア語学と言語教育 V』　神奈川大学言語研究センター（2015）：全 77 頁
掲載論文：
堤　正典　「外国語教育とレアリア」　5-10 頁
小林　潔　「日露の異言語教育現場から見るレアリア」　13-24 頁
高木　南欧子　「留学生の日本語を支えるレアリアをめぐって」　25-44 頁
朝妻　恵里子　「文法にみられるレアリア」　45-50 頁
阿出川　修嘉　「Лингвострановедение を踏まえた意味記述についての覚え書 — Верещагин и Костомаров（1980）における意味に関する諸概念 —」　51-64 頁
サヴィノワ, アリーナ　「文化コンセプトとレアリア　— 外国語教育における言語文化学の役割 —」　67-72 頁
コスチルキン, アレキサンダー　「日本語基本動詞　— ロシア出版の教科書の観察から —」　74-75 頁

② 堤　正典編　『ロシア語学と言語教育 Ⅳ』　神奈川大学言語研究センター（2014）：全 133 頁
関係掲載論文：
小林　潔　「学習者にとってロシア語の国際性とは何か　— 問題提起にかえて —」　5-21 頁
臼山　利信　「民族国家語とロシア語　— グローカル化する中央アジアの言語状況 —」　23-31 頁
サーンニコワ, ナターリヤ　«Языковая ситуация в современной России»（現代のロシアの言語状況）　33-44 頁　［ロシア語］
トルストグーゾフ, アレキサンダー「外国語としてのロシア語検定試験（初級レベル）の概要と問題点」　47-69 頁
ベリャコワ, ガリーナ・ナターリヤ=サーンニコワ・タチヤーナ=ガブリルキナ　«Об опыте использования информационно-коммуникационных технологий в обучении русскому языку как иностранному»（外国語としてのロシア語の教育における ICT 活用の試みについて）　71-76 頁　［ロシア語］
尾子　洋一郎　「ロシア語語彙データベースの制作」　77-80 頁
阿出川　修嘉　「日露間の言語研究・教育環境に関する差異について」　83-97 頁
菅井　健太　「ロシア語の「性質構文」の代名詞重複についての一考察　— 文法化の観点から —」　109-124 頁
堤　正典　「コミュニケーションのためのロシア語教育文法についての覚書」　125-131 頁

③　富谷　玲子・彭　国躍・堤　正典編　『グローバリズムに伴う社会変容と言語政策』　ひつじ書房（2014）：全 252 頁
関係掲載論文：
サーンニコワ，ナターリヤ（小林潔訳）「現代のロシアの言語状況」　107-119 頁
小林　潔　「アストラハンに見るロシアの言語状況」　121-128 頁
堤　正典　「ロシア連邦への留学生に求められるロシア語能力について」　129-141 頁

〔その他〕
ホームページ等
https://kaken.nii.ac.jp/d/p/23520714.ja.html

６．研究組織
(1)研究代表者
堤　正典（TSUTSUMI, Masanori）
神奈川大学・外国語学部・教授
研究者番号：８０２８１４５０

(2)研究分担者
小林　潔（KOBAYASHI, Kiyoshi）
神奈川大学・外国語学部・非常勤講師
研究者番号：２０３５０３７４
（平成 25 年 7 月より研究協力者）

(3)連携協力者
尾子　洋一郎（OGO, Yoichiro）
神奈川大学・外国語学部・非常勤講師
研究者番号：５０５３３７４１

(4)研究者協力者
朝妻　恵里子（ASAZUMA, Eriko）
慶應義塾大学・理工学部・専任講師

阿出川　修嘉（ADEGAWA, Nobuyoshi）
神奈川大学・外国語学部・非常勤講師

臼山　利信（USUYAMA, Toshinobu）
筑波大学・人文社会学系・教授

ガブリルキナ　タチヤーナ（GAVRILKINA, Tatiana）
ロシア国立アストラハン大学・准教授

コスチルキン　アレキサンダー（KOSTYRKIN, Aleksander）
ロシア科学アカデミー東洋学研究所・研究員

サヴィノワ　アリーナ（SAVINOVA, Alina）
ロシア国立アストラハン大学・准教授

サーンニコワ　ナターリヤ（SANNIKOVA, Natalia）
ロシア国立アストラハン大学・准教授

菅井　健太（SUGAI, Kenta）
東京外国語大学大学院・総合国際学研究科言語文化専攻

高木　南欧子（TAKAGI, Naoko）
神奈川大学・外国語学部・特任准教授

トルストグーゾフ　アレキサンダー（TOLSTOGUZOV, Aleksander）
青森公立大学・経営経済学部・准教授

ベリャコワ　ガリーナ（BELYAKOVA, Galina）
ロシア国立アストラハン大学・准教授